

大学の世界展開力強化事業（平成24年度選定）事後評価結果

大 学 名	東京大学
整理番号	I-2
事 業 名	アジア都市環境保健学際コンソーシアムの形成

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">S</div>	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
(コメント) 本事業は、大学院レベルの医工連携教育・研究によって、東南アジア地域の都市環境と保健問題の解決を目指す先導的な取組であり、それぞれの分野に関する広い知識を持ち、分析能力や問題解決力、英語によるコミュニケーション能力に優れた人材の育成を目的に実施された事業である。 事業展開では、各相手大学と定期的な教員交流・意見交換を行っており、双方の教員からなるカリキュラム委員会において教育の目標・シバラス等を精査し、ニーズを適切に把握したカリキュラムを構築している。更に、独立した単位認定委員会の審査によって、より一層カリキュラムの質を高めると同時に単位互換制度も着実に実施されている。交流実績では単位取得を伴う派遣学生・受入学生数ともに当初の計画を大幅に上回り、双方向の十分な交流が実現され、関係する全ての教員は英語による講義・論文指導を行っており、質の高いプログラムが提供されたものと判断する。このほか、相手大学に教員として採用されていた卒業生を各相手大学との窓口やプログラム指導者として積極的に活用したことにより、綿密で活発な運営を可能にしたことや、事務職員の国際化対応力向上のための研修を充実させるなど、大学の国際化が着実に推進されている。また、情報公開については、大学の2種のウェブサイトに講座、講演、講義ノート、教材を無償で公開したほか、本プロジェクト専用のウェブサイトも立ち上げ、新しい学際分野の情報を積極的に広めた点は評価できる。 一方で、計画に謳われている都市工学と国際保健学の両分野からなるアジア都市環境保健学際コンソーシアムについて、東京大学を基軸に多数の相手大学間における協調体制をより具体的かつ実現可能な取組として検討されることを期待する。 本事業は、新たな都市環境保健学という学際分野において十分な成果を挙げつつある意欲的な取組であり、他大学のモデルとなり得る事業である。質の保証を伴う我が国の大学教育の先導的な国際交流事業として、引き続き ASEAN 諸国の枠を超える世界的な発展を期待する。	